財務局
Regional Finance Bureaus

希望ある未来へ　地域と歩む　北海道財務局

最近の北海道経済の動向等について（全国財務局長会議報告資料）



北海道経済の現状・特徴的動向

令和8年9月

北 海 道 財 務 局



北海道財務局
公式マスコットキャラクター
「きたまるん」

◇北海道経済の現状・特徴的動向

- 北海道は、広大な土地を背景に第一次産業の比重が高く、第二次産業はそれを基盤とする食品工業が中心となっている。
- 生産年齢人口が大きく減少する中、外国人労働者数は全国を上回る伸びを示し、基幹である第一次産業の周辺を支えている。

（１）北海道の経済構造

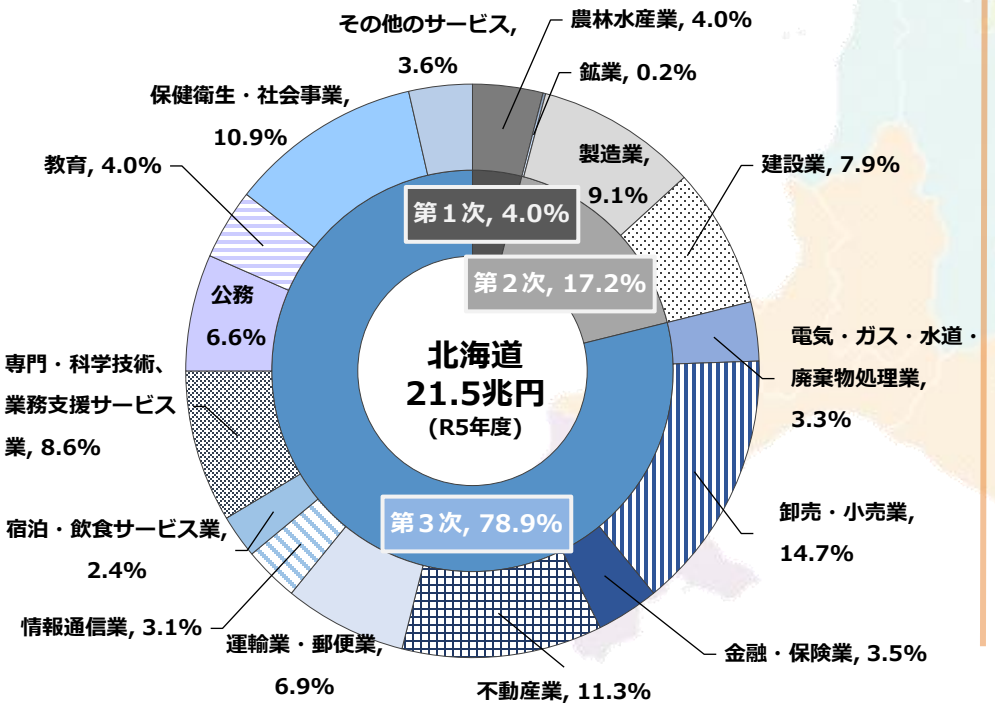
総生産内訳（%）

	第一次産業	第二次産業	第三次産業
北海道（R5年度）	4.0	17.2	78.9
全国（R6暦年）	1.0	24.4	74.7

食品工業構成比（%）

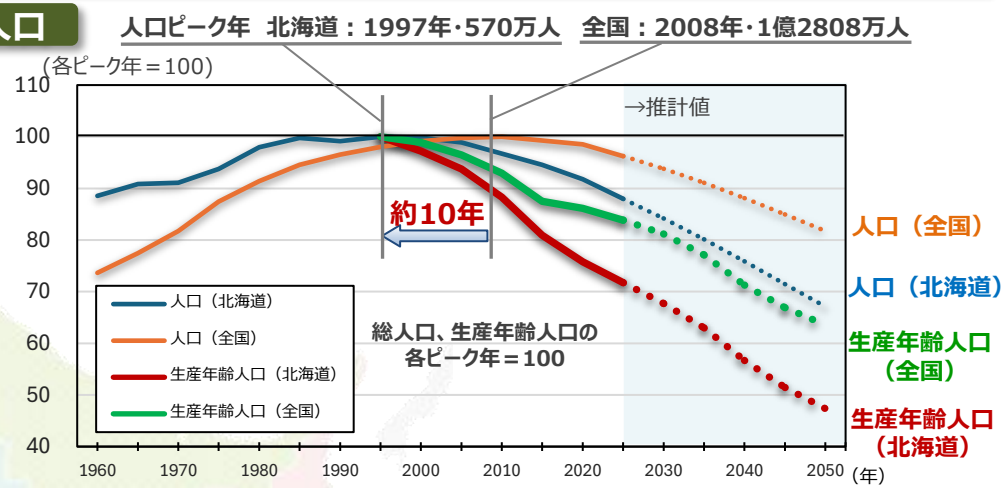
	食品工業
北海道（R4暦年）	41.1
全国（R4暦年）	11.6

【出所】総務省・経済産業省「経済構造実態調査」
（注1）製造業出荷額の構成比
（注2）食品工業：食料品、飲料・タバコ・飼料製造含む



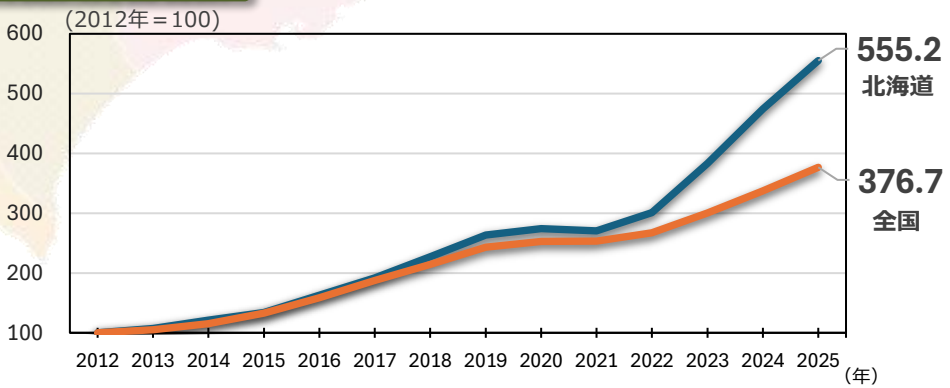
【出所】北海道「道民経済計算」、内閣府「国民経済計算」を基に当局作成
（注）輸入品に課される税・関税を除く構成比

人口



【出所】～2015年：総務省「国勢調査」、2020年～：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を基に当局作成
(注)生産年齢人口＝15歳以上65歳未満の人口

外国人労働者数



【出所】 北海道労働局「「外国人雇用状況」の届出状況」、厚生労働省「「外国人雇用状況」の届出状況」を基に当局作成
（注）各年10月末時点

◇北海道経済の現状・特徴的動向

- 北海道では、半導体・GX・デジタルといった新たな成長産業の集積が進む一方、観光や食・一次産業の高付加価値化も進展しており、新旧の強みを生かした持続的成長への期待が高まっている。
- 豊富な自然資源と広大な土地、冷涼な気候といった地域特性を背景に、北海道は食糧・エネルギー供給を支える重要な基盤を有しており、我が国の経済安全保障やGXの推進を担う戦略的な成長拠点として存在感を高めている。

（２）今後の北海道経済を牽引する分野

新たな基幹産業へ

1 半導体産業（ラピダスを核とする産業集積）



製造装置、素材、物流、人材育成など**関連分野の投資**が相次ぎ、国内有数の半導体産業クラスターが形成されつつある

2 GX（洋上風力発電、水素等）



強風資源や広大海域など国内トップクラスの**再エネポテンシャル**を背景に、洋上風力や水素・アンモニア関連のプロジェクトが進展し、GXの先進地域としての地位確立が期待されている

3 デジタルインフラ・AI（データセンター集積）



冷涼な気候や広大な用地、**再エネ活用の優位性**を背景にデータセンター投資が拡大しており、AI時代を支えるデジタル基盤の集積が進んでいる

既存の強みを高度化

4 観光（欧米客向けAT、高付加価値化）



アドベンチャートラベルや自然・食文化を活かした**体験型観光**への評価が高まり、訪日客の消費単価向上を通じた**観光産業の高付価値化**が実現

5 食・一次産業（高度化・輸出・スマート化）



スマート農業や大規模経営の導入により**生産性向上**が進むほか、高品質な農水産物の輸出拡大を通じて**北海道ブランドの価値向上**を見込む